

科目名	保育内容指導法（健康）				担当者名	白金 俊二	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児にとっての基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防や安全について、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、子どもが健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心情や動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいと内容について 保育所保育指針に示された乳児保育における視点について					
	2	領域「健康」における基本的な生活習慣の獲得の指導について					
	3	領域「健康」の具体的な保育（運動遊び）を想定した指導案の構造について					
	4	領域「健康」の模擬保育（運動遊び）について					
	5	領域「健康」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
	6	領域「健康」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	7	領域「健康」における安全教育について					
	8	領域「健康」における「食育」について					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか			50%		
	成果物	指導案など成果物が適切であるか			50%		
教科書	保育内容の指導法健康（学術文芸出版）						
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
準備学習	予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名		保育内容指導法（人間関係）				担当者名	山口 美和
		幼2種（必修）					
ナンバリング		26Y24B02	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		領域「人間関係」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説し、領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の作成を学習する。					
到達目標		具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を理解することができる。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「人間関係」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「人間関係」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「人間関係」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「人間関係」の模擬保育について					
	8	領域「人間関係」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		参加態度		授業への参加態度		20%	
		リアクションペーパー		授業の内容を理解し、適切にまとめられているか		20%	
		最終レポート		課題を理解し、論旨が明確に論じられているか		60%	
						%	
教科書		『平成29年度告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド本社） 子・酒井真由子編著『コンパス保育内容人間関係』（建帛社） 岸井慶					
参考図書		授業時に適宜紹介します。					
準備学習		幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を通しておくこと					
課題等に対するフィードバック方法		リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育内容指導法（環境）					担当者名	佐竹貴明
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24B03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の幼児を取り巻く環境や、幼児と環境とのかかわりについて専門的に理解する。 ・幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容について理解を深める。 ・幼児の学びの過程を踏まえ、具体的な活動場面を想定しながら保育の構想力と指導法を身につける。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領等に定められた幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域環境に関わる具体的な指導過程を想定したり体験しながら保育の構想及び指導方法を身につける。 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児教育の基本と保育内容「環境」（領域「環境」のねらいと内容）					
	2	幼児期にふさわしい環境と環境構成の意義					
	3	文字・数・図形に親しむ保育の実際					
	4	領域「環境」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	思考力の芽生えを促す遊びの理解と実践					
	6	模擬保育計画の作成					
	7	模擬保育の実施					
	8	模擬保育の振り返り・まとめ					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		小テスト	授業の振り返り			40%	
		授業態度				10%	
		提出物				20%	
		最終課題	テストあるいはレポート			30%	
教科書		文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）読み解く「障害児保育」（萌文書林）					
参考図書		適宜指示する					
準備学習		適宜指示する					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1時間～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		保育内容指導法（言葉）				担当者名	渡邊 望
		幼2種（必修）					
ナンバリング		26Y24B04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「言葉」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。					
到達目標		具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法が分かる。					
授業計画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「言葉」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「言葉」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「言葉」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「言葉」の模擬保育について					
	8	領域「言葉」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		確認テスト (筆記試験)	ことばの発達と保育者のかかわりについて40点満点で筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価する。			40%	
		指導案作成・模擬保育	指導案作成(20)子どもの姿、留意点が記され、実際に保育が可能か否か、模擬保育(10)声の大きさ、進め方、振り返り(10)自己評価、今後の課題、以上の観点で評価し配点する。			40%	
		授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する。			20%	
						%	
教科書		『保育内容（言葉）』同文書院 太田光洋編著 2021年					
参考図書		『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）					
準備学習		これまでに学修した、保育の基本や子どもの育ちなどについて、理解していることを前提に授業を進めます。2学期までの学びを確認したうえで受講してください。					

課題等に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。 ・各課題、確認テストの振り返りは授業内で行います。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する
その他 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。 ②絵本などの児童文化財は「知っている」だけでなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。
実務経験と資格等	<p>実務経験: 保育所・幼稚園での保育経験10年、保育者養成校での教員経験17年 資格等: 幼稚園教諭免許・保育士資格</p>

科目名	保育内容指導法（音楽表現）					担当者名	浅倉 恵子 村椿彬子
	選択						
ナンバリング	26Y24B05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	「幼児と表現（音楽表現）」における学びを継続しながら、幼稚園教育要領や保育所保育指針を理解し、指導案作成、振り返りをおこなう。						
到達目標	音楽表現の保育の展開を指導案作成に結び、音楽表現指導法について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	手遊びの模擬保育、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について					
	2	手遊びの模擬保育、保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」における保育の構想と指導案の構造について（1）					
	5	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について（2）					
	6	手遊びの模擬保育、領域「音楽表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について（3）					
	7	手遊びの模擬保育、指導案の検討（1）					
	8	手遊びの模擬保育、指導案の検討（2）					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	平常点評価	授業への取り組み姿勢、模擬保育等の評価する				50%	
	筆記試験	指導案作成を評価する				50%	
						%	
教科書	『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例一』浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年						
参考図書							
準備学習	模擬保育の準備、ピアノの練習をおこなう。						
課題等に対するフィードバック方法	試験前に、作成した指導案を添削し返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	毎回の授業の復習および模擬保育の準備、ピアノの練習等、1～2時間を奨励する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		保育内容指導法（造形表現）				担当者名	猪瀬 昌延
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		26Y24B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		子どもの「造形表現」に関する基礎的な事項について理解をする。発達段階に応じた「造形表現」を考察し、支援者としての基本的知識を理解する。造形活動の実践を行いながら保育計画や指導案を作成し授業構想を行う。					
到達目標		子どもの「造形表現」に関する基礎的な理解をするとともに、支援者としての基本的知識と技能を身に付け、発展的な思考と実践者としての素養を身に付ける。					
授業計画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	幼児期における身体と表現についての考察					
	4	教材研究Ⅰ：発達段階と「造形表現」について考える（レポート課題）					
	5	教材研究Ⅱ：発達段階と「造形表現」について考える情報機器の活用と指導案の考察					
	6	教材研究Ⅲ：発達段階と「造形表現」について考える指導案の構想（グループワーク）					
	7	教材研究Ⅳ：模擬授業と討議（課題提出）（グループワーク）					
	8	領域「造形表現」の可能性と今後の課題（レポート課題）					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		平常点評価	授業への取り組み姿勢を評価する			60%	
		レポート	趣旨を理解し、適切にまとめて提出されたか			30%	
		課題提出	教材研究に対して積極的に取り組んだか			30%	
教科書		「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「表現指導法」上野奈初美 編著 萌文書林、「保育連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベンス館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベンス館					
参考図書		随時紹介する。					
準備学習		あらかじめ教科書等に目を通し、予習をしておくこと。					
課題等に対するフィードバック方法		課題の提出時等に講評会を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する。					
その他 留意事項		<ul style="list-style-type: none"> 各授業において指定する用具や素材を各自準備すること。なお指定した用具等を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。 課題に応じて材料費が必要となる事がある。 その他、必要に応じて周知する 					
実務経験と資格等		現職：信州大学教育学部准教授 ※中学校・高等学校(美術・工芸)専修免許状を所持し教員実務経験をもつ。					

科目名	教育制度論					担当者名	大佐古 紀雄
	幼教2種 (必修)						
ナンバリング	26Y24C07	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・①
授業内容	本授業は、教育の理念と制度的基盤を学びます。憲法・教育基本法等の基礎から、幼稚園・保育所・認定こども園の制度比較、教員の免許・服務、教育行政までを網羅します。保育者としての専門性を高めるため、教育制度の現状と課題を理解し、自身の職務を法制度や社会的文脈の中に位置づける力を養うことを目的とします。						
到達目標	①日本国憲法や教育基本法における教育の理念と、それを具現化する教育制度の仕組みを理解している。②学校教育制度、特に幼児教育に関連する幼稚園・認定こども園の制度的法的根拠を理解している。③教育行政や学校経営の仕組みを知り、公教育の担い手としての教員の役割と身分について理解を深めている。						
授業計画	回	内 容					
	1	教育を受ける権利と教育制度の基盤					
	2	教育基本法と教育の目的					
	3	学校教育法と学校体系					
	4	幼児教育の制度的特質 (幼稚園と保育所の制度比較)					
	5	幼保連携型認定こども園と新しい教育制度					
	6	教育行政と教育委員会制度					
	7	教員免許制度と教員の職務・身分					
8	教育制度の現代的課題とこれからの学校経営						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業参加態度 (提出物含む)				30%	
		試験 (筆記)				70%	
教科書		適宜提示する。					
参考図書							
準備学習							
課題等に対するフィードバック方法							
準備学習 (予習・復習等) に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		これまで様々に関わってきた調査研究や委託研究などを通じて得られた教育制度に関する知見をもとに、幼児教育・保育をめぐるさまざまな制度を理解するための視野を培う授業を行う。					

科目名		特別支援教育・保育論Ⅱ				担当者名	宮地 弘一郎	
		[保育士必修]						
ナンバリング		26Y24C08	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容		障害の概念と障害児保育の歴史的変遷について解説し、障害児と特別な配慮を要する子どもの保育の実際及び現状と課題について考察する。視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児・肢体不自由児・知的障害児・発達障害児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と発達援助について学習する。						
到達目標		障害児を支える理念及び障害児や特別な配慮を要する子どもの理解と、保育における発達の援助や過程への支援並びに障害児保育の現状と課題について理解している。						
授 業 計 画	回	タイトル			内 容			
	1	障害と障害児保育			障害の概念／障害児保育の歴史的変遷			
	2	障害のある子の理解と発達支援(1)			視覚障害児／聴覚障害児の理解と援助について			
	3	障害のある子の理解と発達支援(2)			肢体不自由児／知的障害児の理解と援助について			
	4	障害のある子の理解と発達支援(3)			発達障害児／言語障害児の理解と援助について			
	5	障害のある子の理解と発達支援(4)			重症心身障害児／医療的ケア児			
	6	特別なニーズのある子どもの保育(1)			ICFモデルからみた子ども理解／子どもの健康と安全			
	7	特別なニーズのある子どもの保育(2)			指導計画と支援計画			
	8	特別なニーズのある子どもの保育(3)			教育と福祉における現状と課題を考える			
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		コメントカード		授業を理解し、その概要を適切にまとめ、感想・意見を整理できたか			20%	
		レポート		課題の主旨を理解し、適切にまとめ提出できたか			30%	
		試験		問題の正答率			50%	
教科書 参考図書		児童育成協会監修『障害児保育(新・基本保育シリーズ17)第2版』2026年, 中央法規						
準備学習		あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法		返却時にコメント、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する						
その他 留意事項		第2、3回では障害疑似体験を行う。下記を持参すること。 ハサミ／セロテープ／折紙2枚／ペットボトル飲料／市販のお菓子の箱(中身入りでよい)						
実務経験と資格等		実務) 医療機関、特別支援学校、福祉事業所等での重症心身障害児、医療的ケア児、入院児等の療育研究、学校教員や病棟保育士の指導に従事。資格) 公認心理師・養護学校教員専修免許						

科目名	教育方法論					担当者名	森下 孟
	幼2種（必修）						
ナンバリング	26Y24C09	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育の方法やあり方、育みたい資質や能力と幼児理解に基づいた評価の考え方について概説したうえで、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用について学習する。						
到達目標	情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用ができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	教育方法の意義と目的及び思想と歴史について					
	2	今後の社会を担う子供たちに求められる資質と能力について					
	3	育みたい資質や能力と幼児理解に基づく評価の考え方について					
	4	保育を構成する基礎的な要件について（幼児・学級・教員・教材等）					
	5	保育を行う上での基礎的な指導技術について（話法・板書等）					
	6	指導案の構成と作成について					
	7	情報機器を活用した教材等の作成について					
	8	情報活用能力を育成するための指導法について					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	レポート等課題	毎回のレポート等課題				50%	
	試験	定期テストあるいはレポートの評価				50%	
						%	
教科書	※教科書変更できませんか？「保育方法の基礎」（柴崎正行編著）わかば社 教育の方法と技術 Ver. 2：IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び，稲垣忠（編著），北大路書房						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	教育相談				担当者名	中山智哉	
	幼2種 (必修)						
ナンバリング	26Y24B10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	本講義では臨床心理学諸理論を基盤としつつ、保育実務現場における幼児・児童・思春期・青年期前期の子どもたちの発達とそれに伴う心理的諸問題を取り扱う。子どもたちのアセスメント、心理的諸問題の発生機序、問題に対応するためのカウンセリングスキル、チームでの対応方法などを講義と演習を通して学習し、事例を通して対応を学んでいく。						
到達目標	心理学諸理論を基盤とした子ども理解と困難状況のアセスメントができる。子ども・保護者との円滑な面談や適切な対応を身につける。						
授業計画	回	内 容					
	1	教育相談の意義、現在の教育現場の課題、相手を理解するとは					
	2	幼児期から青年期までの発達と子ども理解					
	3	幼児期から青年期までのメンタルヘルス					
	4	教育相談に関連するカウンセリング理論を学ぶ					
	5	傾聴のための技法、言い換え、繰り返し、要約、解釈など					
	6	ロールプレイを通してカウンセリングを学ぶ					
	7	教育相談におけるアセスメント①					
	8	教育相談におけるアセスメント②					
	9	発達障がいへの理解と支援 子どもへの支援					
	10	発達障がいへの理解と支援 家庭への支援					
	11	事例による演習① 不登園・不登校・いじめ					
	12	事例による演習② 親子関係・虐待事例					
	13	事例による演習③ 保育現場における相談支援の実際					
	14	職員間連携 外部との連携					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			70%		
	授業内ワーク	ワークでの取り組み態度・姿勢			30%		
教科書	特になし。						
参考図書	特になし。						

準備学習	配布レジメに目を通し、予習をしておくこと。
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他 留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。
実務経験と資格等	臨床心理士として、幼稚園、小中学校等で教育相談に従事してきた。

科目名	子ども家庭福祉					担当者名	中野 明子 吉澤 恵子 (オムニバス)
	保育士 (必修)						
ナンバリング	26Y24B11	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を考える上で、家庭福祉がいかに重要かについて学ぶ ・児童の権利について考える ・多様な保育 (福祉) ニーズについて学ぶ 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利が家庭・園・地域の中でどのように守られていくべきかを説明することができる ・現代社会における多様な現状 (少子化への対応、貧困家庭、虐待など) を理解し、支援方法を考えることができる 						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について (担当: 中野明子)					
	2	子ども家庭福祉の理念と概要 (担当: 中野明子)					
	3	子どもの人権擁護の歴史的変遷について (担当: 中野明子)					
	4	児童の権利に関する条約の変遷と理解 (担当: 中野明子)					
	5	日本の教育の現場における子どもの権利について (担当: 中野明子)					
	6	子ども家庭福祉の制度と実施体系について (担当: 吉澤恵子)					
	7	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職について (担当: 吉澤恵子)					
	8	少子化と地域子育て支援及び母子保健について (担当: 吉澤恵子)					
	9	「子どもの権利ノート」の意義を理解する (担当: 中野明子)					
	10	子ども虐待及びDVとその防止について (担当: 吉澤恵子)					
	11	多様な保育ニーズへの対応について (担当: 中野明子)					
	12	障がいのある子どもや保護者への対応について (担当: 中野明子)					
	13	貧困家庭、外国につながる子どもとその家庭への対応 (担当: 中野明子)					
	14	海外の子育て支援の実際と現状 (担当: 中野明子)					
15	授業のまとめ (担当: 中野明子)						
成績評価方法	評価方法		評価基準			割合	
	授業時レポート		授業の振り返り			30%	
	提出物		課題の内容を評価する			20%	
	授業態度		授業への積極的参加、予習復習 (反転学習) の遂行			10%	
最終課題		レポート			40%		
教科書	子ども家庭福祉 第2版 中央法規出版						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	<p>中野: 幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長を経て、福島学院大学短期大学部保育学科にて16年間、授業及び保育実習指導担当。(保育士資格・幼稚園教諭二種免許状・保育実習指導者認定修了) 令和6年度より長野市おひぎで絵本事業絵本選定委員</p> <p>吉澤:</p>						

科目名	社会福祉					担当者名	比田井 友香
	必修						
ナンバリング	26Y24B12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	本授業では、社会福祉全般について体系的に学び、基礎的な知識の習得を図るとともに、保育の現場にも活かすことのできるソーシャルワークの視点および技術の理解を深める。特に、子どもを取り巻く環境に着目し、多角的に捉える視点を養う。さらに、事例や身近な課題にも触れながら、学びを自分自身の問題として捉え、理解を深めていく。						
到達目標	本授業を通して、社会福祉に関する基礎的な知識を理解し、保育や対人援助にかかわる現場において求められるソーシャルワークの視点および技術の基礎を身につける。また、子どもを取り巻く環境や社会的課題について多角的に捉え、視野を広げるとともに、自分の考えを持ち、人に説明できる力を養う。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	オリエンテーション／社会福祉とは					
	2	現代社会の動向と社会福祉の意義					
	3	社会福祉の歴史					
	4	社会福祉の法律と制度					
	5	社会福祉の実施体制					
	6	社会福祉の施設と専門職					
	7	社会保障制度①					
	8	社会保障制度②					
	9	子ども家庭福祉の法と制度					
	10	高齢者福祉の法と制度					
	11	障害者福祉の法と制度					
	12	社会福祉とソーシャルワーク					
	13	福祉サービスの利用支援と権利擁護					
	14	社会福祉の動向と課題					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準				割合
		授業姿勢	出席状況、授業への参加意欲および取り組みの姿勢を総合的に評価する				60%
		試験	試験における理解度および正答率により評価する				40%
教科書	『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉』（2025年4月）株式会社みらい						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパー等を活用し、次回以降の授業において適宜フィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	予習・復習あわせて30分～1時間程度を目安とする。						
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名	子ども家庭支援論					担当者名	中田 麗子
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24C13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	子ども家庭支援の意義・目的および保育士の役割について学ぶ。現代の子育て家庭を取り巻く社会状況や課題を踏まえ、保育所内外における多様な家庭支援の在り方を学習する。さらに、法・制度や社会資源の全体像と、連携について学ぶ。						
到達目標	現代の子育て家庭の状況と課題、子育て支援の制度や社会資源の全体像を理解し、保育士が担う家庭支援の役割と姿勢、意義と目的を理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	「子ども家庭支援論」の概要					
	2	子ども家庭支援の役割					
	3	子育て家庭と社会の変容					
	4	保育士が担う子ども家庭支援の姿勢と倫理					
	5	グループワーク①					
	6	保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援					
	7	特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援					
	8	地域の子育て家庭への支援					
	9	保育所を利用していない子どもへの支援					
	10	グループワーク②					
	11	社会的養護を必要とする家庭への支援					
	12	子ども家庭支援に関わる法・制度					
	13	子ども家庭支援における社会資源との連携					
	14	グループワーク発表					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業参加状況	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか			30%	
		課題レポート				70%	
教科書	橋本真紀・鶴宏史編著『よくわかる子ども家庭支援論』ミネルヴァ書房						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーは、次の授業の際に講評を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	保育士資格必修科目						
実務経験と資格等	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格 ・児童養護施設におけるボランティア経験あり ・保育園および地域の子育て支援の施策やサービスを当事者として受けた経験あり ・保育施設における保護者参画に関する研究に従事している 						

科目名	社会的養護Ⅱ					担当者名	比田井 友香
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24C14	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	子ども理解を踏まえた日常生活支援、治療的支援、自立支援などの社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の生活特性と実際について解説する。そのうえで、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際と社会的養護に関わる相談援助の方法や技術、子どもの虐待の防止と家庭支援及び今後の課題と展望について考察する。						
到達目標	社会的養護における子ども理解のうえで、アセスメントと個別支援計画の作成、記録及び自己評価を作成することができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	社会的養護における子どもの理解について					
	2	日常生活支援・治療的支援・自立支援について					
	3	施設養護及び家庭養護の生活特性及び実際について					
	4	アセスメントと個別支援計画の作成					
	5	記録及び自己評価について					
	6	保育の専門性に関わる知識と技術及び実践について					
	7	社会的養護に関わる相談援助の知識と技術及び実践について					
	8	社会的養護における家庭支援及び課題と展望					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価				30%	
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価				30%	
	試験	問題の正答率				40%	
						%	
教科書	『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ 第2版』（2025年3月1日）株式会社みらい						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名	子ども家庭支援の心理学					担当者名	平澤 泉
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24B15	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について学ぶとともに、初期体験の重要性や発達課題、家族や家庭の意義と機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から考察していく。						
到達目標	子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	現代社会における子育て支援の必要性について					
	3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について					
	4	学童期後期から青年期にかけての発達について					
	5	成人期・老年期における発達について					
	6	家族・家庭の意義と機能について					
	7	親子関係・家族関係の理解について					
	8	子育ての経験と親としての育ちについて					
	9	子育てを取り巻く社会的状況について					
	10	ライフコースと仕事・子育てについて					
	11	多様な家庭とその理解について					
	12	特別な配慮を要する家庭について					
	13	子どもの生活及び生育環境とその影響について					
	14	子どもの心の健康に関わる問題について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	試験	問題の正答率				70%	
						%	
教科書	「子ども家庭支援の心理学 子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る」著編/北川裕美子 他3名 著/小川綾子他12名						
参考図書	「シードブック 子ども家庭支援の心理学」編著/本郷一夫、神谷哲司 「子ども家庭支援」著者/倉石哲也、大竹智 出版社/ミネルヴァ書房						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て家庭を支援する知識と技術を身に付ける。						
実務経験と資格等	【実務経験】幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の主任保育士、利用者支援事業利用者支援専門員（子育てコンシェルジュ）【資格・免許】幼稚園教諭二級免許、保育士、利用者支援事業利用者支援専門員						

科目名	子どもの理解と援助				担当者名	畔上一康	
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24C16	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・①
授業内容	保育実践において実態に即した子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解の視点と基本的な考え方について解説し、子どもを理解するための具体的な方法について学習する。						
到達目標	発達の課題に応じた援助と関わりや、特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	保育における子どもの理解の意義について					
	2	子どもを取り巻く環境と子ども理解（1）発達と環境					
	3	子どもを取り巻く環境と子ども理解（2）保育実践へのエコロジカルアプローチ					
	4	子どもを理解における保育士の観（1）保育士の姿勢となまざし					
	5	子どもを理解における保育士の観（2）保育実践における観の転回					
	6	保育における個と集団の関係の理解と援助					
	7	ポストヒューマン的視点からのインクルーシブ保育					
	8	子どもの理解を深める保育の協働性					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する				30%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか				40%	
						%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「子ども理解と援助」ミネルヴァ書房						
	「子どもと創造するインクルーシブな保育」ミネルヴァ書房						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	小学校教諭，教頭，附属小副校長（計35年），信州大学大学院教授（8年），長野短期大学学長（2年）（資格）小学校教員免許，中学校教員免許，高等学校教員免許						

科目名	子どもの保健					担当者名	吉澤 恵子
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24C17	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	健康の概念と健康指標及び保健活動の意義と目的について概説したうえで、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題及び子どもの心身の健康増進を図る保健活動について解説する。そのうえで、身体発育及び運動機能並びに生理機能の発達と保健について学ぶとともに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応について学習する。						
到達目標	子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応について理解する。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	健康の概念と健康指標について					
	3	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について					
	4	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について					
	5	身体発育の発達と保健について					
	6	運動機能の発達と保健について					
	7	生理機能の発達と保健について					
	8	健康状態の観察について					
	9	子どもの体調不良の早期発見、救急疾患の特徴と適正な対応について					
	10	発育・発達の把握と健康診断について					
	11	子どもの疾病の予防と適切な対応について①アレルギー疾患について					
	12	子どもの疾病の予防と適切な対応について②子どもの免疫の発達と感染症の特徴について知る					
	13	子どもの疾病の予防と適切な対応について③感染症予防とその対応について理解する					
	14	保健活動における地域連携と虐待防止について理解する					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	小テストや課題提出	課題の理解度				20%	
	試験	正答率				80%	
						%	
教科書	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂2版 小林 美由紀編著 森脇 浩一編集協力 診断と治療社						
参考図書	・国民衛生の動向（厚生労働省） ・保育所保育指針						
準備学習	授業計画で示されている内容について、身近な子どもたちや新聞記事等に関心を持ち、授業に参加すること						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点后必要に応じて授業内で返却し、講評する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	授業内で伝えますが、自身の母子健康手帳を使用する時間があります。						
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育て支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として学校行事等への従事経験あり。						

科目名		子どもの食と栄養				担当者名	風間 悦子
		保育士（必修）					
ナンバリング		26Y24C18	授業の種類	演習	単位数	2	開講時期
授業内容		健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養と子どもの発育・発達と食生活の関連について具体例を挙げながら理解を深めるようにする。					
到達目標		養護及び教育の一体性を踏まえた保育における意義と目的や基本的考え方について、理解することができる。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子どもの心身の健康と食生活について					
	3	子どもの食生活の現状と課題について					
	4	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について					
	5	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について					
	6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について					
	7	幼児期・学童期の心身の発達と食生活について					
	8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方について					
	9	食育の内容と計画及び評価及び環境について					
	10	食生活指導及び食を通じた保護者への支援について					
	11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養について					
	12	疾病及び体調不良の子どもへの対応について					
	13	食物アレルギーのある子どもへの対応について					
	14	障害のある子どもへの対応について					
	15	授業のまとめ					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業参加姿勢		授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する		20%	
		課題提出		課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか		30%	
		試験		問題の正答率		50%	
						%	
教科書		子どもの食と栄養一演習一 岡崎光子編著 同文書院					
参考図書							
準備学習		授業に掲示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき、あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと					
課題等に対するフィードバック方法		返却時における講評、解説を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		管理栄養士					

科目名	乳児保育Ⅱ					担当者名	橋本 佳美
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24C19	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
C	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考えを解説し、養護や教育の一体性をふまえて子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的な事例を取り上げ、乳児保育における計画の作成について学習する。						
到達目標	乳児保育について長期・短期・個別・集団の指導計画を立てることができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて					
	2	子どもの主体性の尊重と自己の育ち及び学びの芽生えについて					
	3	生活の流れと生活や遊びを支える環境の構成について					
	4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について					
	5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について					
	6	乳児保育における配慮の実際について					
	7	長期的な指導計画と短期的な指導計画について					
8	個別的な指導計画と集団の指導計画について						
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	課題提出		課題の意味を理解し記述できているか			30%	
	試験		正答率			50%	
	参加態度		発言し提案していたか			20%	
教科書	菊池篤子編(2022). ワークで学ぶ乳児保育Ⅰ・Ⅱ. みらい						
参考図書	①田中真介(2009). 発達がわかれば子どもが見える 0歳から就学までの目からウロコの保育実践. 幼児保育研究会 ②林万里(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ③吉本和子(2002). 乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために. エイデル研究所						
準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること						
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり						

科目名	子どもの健康と安全					担当者名	吉澤 恵子
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24D20	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助と衛生管理や事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について概説する。そのうえで、子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策など、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的な事例を取り上げながら学習する。						
到達目標	子どもの健康及び安全に関わる組織的取り組みや保健活動の実践について考えその計画及び評価ができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	保健的視点を踏まえた保育環境（衛生管理）について理解する（演習）					
	2	保育における保健的対応について：保育における保健的対応の基本的な考え方について知る（身体計測・演習）					
	3	子どもの疾病と適切な対応：子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握と傷病が発生した時の対応について考える（グループワーク）					
	4	応急処置、救急処置、アナフィラキシーへの適切な対応及び救急蘇生法について					
	5	感染症の予防と対策 発症時と罹患後の対応について理解する（嘔吐物処理・演習）					
	6	事故防止及び健康安全管理について：健康及び安全管理体制 職員間の連携・協働と組織的取り組みについて考える（ヒヤリ・ハット・演習）					
	7	個別的な配慮や障害のある子どもへの対応について考える					
	8	保育における保健活動の計画と地域の関連する組織体制について理解する（演習）					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	グループワークや演習での課題	グループワークや演習への参加態度、課題の理解度を評価				30%	
	試験	正答率				70%	
						%	
教科書	「これならわかる！子どもの保健演習ノート」 改訂第3版追補 小林美由紀執筆						
参考図書	・保育所保育指針 ・保育所における感染症対策ガイドライン ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン等						
準備学習	各回の授業内容について、「子どもの保健」の教科書：授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂2版 小林 美由紀編著 森脇 浩一編集協力 診断と治療社で復習しておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点后必要に応じて授業内で返却し、講評する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	演習授業であるため、欠席した場合は必ず演習した内容の確認を行いましょう。						
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育て支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として、学校行事等への従事経験あり。						

科目名	子育て支援				担当者名	平澤 泉	
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y24D21	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	子どもの保育とともに行う保護者の支援や日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育士の行う子育て支援の特性について概説し、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について、実践事例等を通して具体的に学習する。						
到達目標	子育て支援の計画と実践や社会資源の活用について理解する。						
授業計画	回	内 容					
	1	保育者が行う子育て支援の特性について					
	2	要支援者の状況や状態の把握と支援の計画について					
	3	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて					
	4	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について					
	5	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について					
	6	障害や特別な配慮を要する子どもと家庭に対する支援について					
	7	虐待の予防と対応及び要保護児童等の家庭に対する支援について					
	8	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解について授業の目的と概要について					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%		
	試験	問題の正答率			70%		
					%		
教科書	「子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック」著／二宮祐子 出版社／萌文書林						
参考図書	「人口減少時代に向けた 保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援 地域とともに歩む22の実践事例」編集代表／倉石哲也 出版社／中央法規出版 「今、もっとも必要な これからの子ども・子育て支援」（これからの保育シリーズ9）編著／土谷みちこ 著者／汐見稔幸 他3名 出版社／風鳴舎						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て支援に関する知識と技術を身に付ける。						

実務経験と資格等

【実務経験】 幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の保育士、利用者支援事業利用者支援専門員(子育てコンシェルジュ)
【資格・免許】 幼稚園教諭二級免許状、保育士証、利用者支援事業利用者支援専門員

科目名	幼児と運動				担当者名	白金 俊二	
	選択						
ナンバリング	26Y24D22	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	鬼遊び、ボールなどの用具を使った遊び、遊具や器械・器具を使った遊び、その他環境を活用した遊びを実践的に学び、支援の仕方を身に付ける						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の知的発達や運動機能の発達等を理解して保育を構想できる ・ 幼児期の運動遊びの意義を理解できる 						
授業計画	回	内 容					
	1	鬼遊び					
	2	多様な動きをつくる運動遊び					
	3	器械・器具を用いた運動遊び					
	4	走ったり跳んだりする運動遊び					
	5	ボールを使った運動遊び					
	6	伝承遊び					
	7	表現リズム遊び					
	8	まとめ					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか			50%		
	実技課題	それぞれの運動の特性を理解し、基礎的な知識・技能の習得ができたか			50%		
教科書	運動遊びのアイデアBOOK（ほおずき書籍）						
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）						
準備学習							
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	水分補給、環境整備など安全に留意して行いましょう						
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名		幼児と音楽				担当者名	浅倉 恵子 村椿彬子
		選択					
ナンバリング		26Y24D23	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		幼児の音楽表現活動の実際を理解し、保育者援助について実践的に学ぶ。					
到達目標		子どもの音楽表現活動を学び、保育者援助法を身につける。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	子どもの歌の音楽理論について学ぶ (1)					
	2	子どもの歌の音楽理論について学ぶ (2)					
	3	子どもの音楽表現活動 (1) 歌唱・声の表現活動					
	4	子どもの音楽表現活動 (2) 器楽遊びの表現活動					
	5	弾き歌いのコード奏法を学ぶ (1)					
	6	弾き歌いのコード奏法を学ぶ (2)					
	7	弾き歌いの実践 (1)					
	8	弾き歌いの実践 (2)					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		平常点評価	授業への取り組み姿勢を評価する			60%	
		試験	音楽表現の実技試験			40%	
教科書		『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年					
参考図書		参考資料を配付する					
準備学習		ピアノの練習や音楽表現の練習をする					
課題等に対するフィードバック方法		表現発表後に講評を行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習に1~2時間を奨励する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	幼児と造形					担当者名	猪瀬 昌延
	選択						
ナンバリング	26Y24D24	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2④
授業内容	幼児と保育者それぞれの視点を持ち、造形活動を実践する。素材の基本的な扱い方と用具の安全で正しい扱い方を実践を通して確認するとともに、園の年間行事を念頭に置き、造形活動の教育的意義と活用を考える。						
到達目標	子ども達の造形活動は遊びと密接な関係をもち、体全体を使って行われることを理解して活動を支えると共に、保育者として感性を豊かにし、制作実践を通して自己と外界世界と触れ合い感じ、柔軟な支援が可能になる。						
授業計画	回	内 容					
	1	表現技法Ⅰ（描画基礎）					
	2	表現技法Ⅱ（工作基礎）					
	3	造形表現①構想と実践					
	4	造形表現②制作と発表（課題提出）					
	5	造形表現③構想と実践					
	6	造形表現④制作と発表（課題提出）					
	7	行事と造形活動①構想と制作					
	8	行事と造形活動②制作と発表（課題提出・レポート提出）					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	平常点評価	授業への取り組み姿勢を評価する				40%	
	課題提出	課題に対して積極的に取り組んだか				40%	
	レポート	趣旨を理解し、適切にまとめて提出されたか				20%	
教科書	「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「表現指導法」上野奈初美 編著 萌文書林、「保育をひらく造形表現」槇英子 萌文書林						
参考図書	随時紹介する。						
準備学習	あらかじめ教科書等に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題の提出時等に講評会を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する。						
その他 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業において指定する用具や素材を各自準備すること。なお指定した用具等を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。 ・課題に応じて材料費が必要となる事がある。 ・その他、必要に応じて周知する 						
実務経験と資格等	現職:信州大学教育学部准教授 ※中学校・高等学校(美術・工芸)専修免許状を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	幼児と安全					担当者名	関 香保里
	選択						
ナンバリング	26Y24D25	授業の種類	演 習	単位数	1	開講時期	2年・④
授 業 内 容	幼稚園や保育園、認定こども園などの教育・保育施設において多発している様々な事故の現状について概説したうえで、教育・保育施設において起こりがちな事故について過去の事例を踏まえながら解説するとともに、事故が発生した主な原因などを取り上げて事故の防止と対策のポイントを学習する。						
到 達 目 標	事故を防ぐために何をすべきか、子どもの命を守るために何ができるのかなど、事故の防止と対策のポイントについて理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	教育現場や保育施設で起こる事故について					
	2	事件事例（1）お昼寝中の事件事例					
	3	事件事例（2）食事中の事件事例					
	4	事件事例（3）散歩中の事件事例					
	5	事件事例（4）送迎中の事件事例					
	6	事件事例（5）年齢別の事件事例					
	7	事故防止と事故対策（1）事故が起こりやすい場所の特定					
	8	事故防止と事故対策（2）危険性や改善点の園内での共有					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割 合	
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する				50%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか				20%	
						%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省。フレーベル館						
	「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省。フレーベル館						
	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	幼稚園主任10年、保育園園長2年、こども園園長1年 保育士資格・幼稚園教諭免許						